平新報

毎月10日發行
編輯兼發行印刷人
山野邊庄吉
磐城市岩出字向二八
發行所 平新報社
一部定價拾円送料四円

善惡邪正を捌く標準原理

東京都江戸川區一之江四丁目(國柱会本部内)
高知尾誠吉

合掌。平素御疎音失禮多謝。この度『平新報』參百號との事多年の御苦心感激致します。勸善懲惡最も結構。破邪顯正更に結構益々御奮進希望致します。それと同時に善惡邪正を捌く標準原理については益々深く御研究の上利劍の冴を見せて頂きたい紙料の中へ別封御送り致します。御受納願います。

愈々一ヶ年振りで八月は公開公判！ 駒忠事件（民事） 刑事々件は取調中とある

眞立隨筆

所謂駒忠事件、磐城市並びに草野惠正氏等の二重売り事件はどうなつて居るか、六月十八日午後一時から平地裁で準備公判を開催されたが、又もや準備公判の續行となり七月二十三日となつた、但し七月は最後の準備公判となり八月には公開公判となる、此處に強張せねばならぬ事は刑事事件は取調中とある、ここに解せぬ事は刑事事件は民事より前に提訴したのであるが民事事件とニラミ合して居るのではないかと平検察廰が批判されて居る。

右記したが何が故にかくの如く準備公判が延期になるか、草野惠正氏の代理辯護士畠山靈賢氏病氣入院中で最近死亡されたが、そのかわり横濱市在の辯護士畠山國重氏となつたのだが當日國重氏は欠席した、被告側からは

一、長瀬彦義代理市井茂氏
一、常磐炭礦同上
一、磐城市長三代義勝氏代理、眞木桓氏宗宮博士

原告側は

常磐化成KK駒木根忠敬氏
代理 大嶺 庫氏
元法相法博 鈴木 義男氏
瀧内 禮作氏

すべてそろつたのであるが草野氏側は欠席、係官は早坂判事、但し公開公判になれば梶村判事がその主となるであろうとの事だが、刑事事件で長瀬議長らが背任や横領で被告訴人とされて居るのだから身が潔白とすれば何が故に駒木根忠敬氏を誣告で訴へぬか今以つて默つて居る彼等の心事は自ら是認して居るものと社会では見て居る

嵐の跡靜かならず常磐市長選 後日の現象

◈常磐市湯本の鯨岡潔氏社会黨常磐支部前支部長は同市長、磯野清治、常磐炭礦勞働組合長西山一男兩氏に「市政の民主的明朗化について」の十三ヶ條に亘つて公的会談を要請したが磯野市長は今その機に在らずとして公的懇談を断つた、との事、磯野市長、西山組合長は不理と見て逃げを打つたとの市民の批判がある ◈過般の常磐市長選は、矢吹松本を競り合して磯野を勝たした、常磐炭礦幹部はその効を奏したものである ◈百兩の青柳氏配布せる『一坑夫の妻より』として常磐炭礦のタコ部屋を解放して下さい、又市政革新同盟の出した、磯野新市長登場記を翻て、磯野市長も常磐炭礦も同勞働組合もそれが反駁文も釋明も今日に至つても出して居らぬから百兩の兩チラシ全文を信ずると革新同盟の兩チラシの全文を是認した事になつた、こすると、常磐炭礦は敢て脱法言動をなした事になる、立端に公職選擧法に觸れる選擧は自由だから自己の好きな信ずる人を選ぶ、各人他で束縛してはならぬされてはならぬ、廣義に解して人權蹂躪である、〇〇までやつて居る勝たんがために〇〇の意志を〇〇や御馳走そのこの言動は實に筆者の筆では表現し得ざるものがある、邪道即ち不純な首長選擧をやつたものだ

創價學會道炭勞側と對決

北海道炭勞組合員七萬二千人が過般定期大会で打ち出した、新興宗教創價學会の締出し方針に對し。同學会（戸田城聖会長＝東京都新宿區信濃町三二）はこの程本部から青年行動隊約五百人を北海道に派遣、組合側と對決させる事になり、こ流、七月一日に札幌、十二日に夕張で炭勞の封建性をつくなどを議題に信者大会を開くまた四日には夕張地區組合と会見、締出し方針に對し反省を求めるほか、山元で信者の宣教活動を行い、炭勞の信者切りくずし工作を阻止しつつある、此の報導は對岸の火災視して居るが地方常磐、小名濱、湯本、内郷にもこの點と類似の言動が起りつつある、信仰は不純な組織より強い、彼等勞組は組織を頼んで邪道を歩む！ 〇〇市の首長選擧の言動が事實がものいうて居る、一日の札幌大会は信者約一萬六千人が集つて開かれ本部の理事辻武壽參議院議員、牛田寬年部長（都立大學工學部講師）も出席したと。

小名濱市名變更

磐城市は小名濱市と改稱するのが當を得て居る、これは磐城市民の聲ばかりでない、國際的だと筆者は昨年八月本紙上に力說した、過般の市議会で十八對十五で現狀のままとなつたとか、そも〳〵この市名、命名の折は、合併前に各町村に諮問を出したもので、勿論小名濱はその折。鹿島も玉川は小名濱で良い、泉、渡邊は小名濱で良い、江名のみが磐城と命打つてきた、時の故立花秀吉氏が江名の御機嫌伺いに磐城と命名して了つた、彼らは只々票を得んがために江名の鼻息を伺つたのだ社会公益大衆の便不便等とは眼中になかつた今日小名濱郵便局が磐城局と局名變更せざる點買つてやるべきだ、いづれ五市合併の機も至るであろうこういう事は議会人のみ任しておくべきでないがそのうち對策を講ぜんとする聲がある常磐炭礦の如きは五市どころでない、茨城、双葉とも地下、地上、行政的に合併した心算で居るらしい、

大學校が欲しい

平市田町の猪狩四郎氏曰く平地方で今一番欲しいものは何か……大學だと大學なら國府田敬三郎氏に交涉して可能かも知れぬ、安藤公銅像再建等は地方の人で出來る、過去の表彰である、大學は未來の人を造くる……原動力、うがつた事をいう相變らずの名論である然し筆者は思う、大學もないよりはあつたに越した事はない……がこれは特權階級の子弟のみ入れる學校で大衆的でない、一歩間口を廣く高等學校入校就學を普遍的に出來ぬか、なお進んで義務教育に修身科を設け得ぬか、何も明治時代の教育勅語を全面的に總讃するものでないが、最近の社会世相はどうか、新聞には暗い報導で滿載されて居る、映畫の如きも視覺社会教育が金儲けの一途である、競輪の如きも百害あつて一利がない、競輪に非難のある今日四市が競輪經營等と市自治体が興業化せんとするこれも平市は現に角他市が何が故に競輪を業とせねばならぬ、市營バスに關聯するとせば、これは話しにならぬ前矢吹常磐市長、市營バス等やるなら永久的な電車にすべしと強張された事を耳にしたが電車なら永久的だ、無軌道はハイヤーで事足りると

知事選

大竹辭し、その自分のアト釜に齋藤を推した、これが民主的でない、鈴木氏が屈け佐藤氏片や社黨では八百坂氏を推して居る、候補者が(民自)出過ぎると常磐市長選の如く社黨にやられる但し現職の八百坂を推して居るがどうなるか民自側の出様を見て居るらしい、社黨はこの頃選擧が上手になつた樣だ、手段をいらばず(勝つために)あまりスヂの通らぬ事許り續くと大衆の批判が正しきに向く社黨の戰法寒心に堪えず

小濱長太郎翁の美擧と奉仕

小名濱港のスマヤ小濱長太郎翁は本年八十三才の長壽を保つて今なお同市選擧管理委員長の要職に在るが、過般公民館圖書室に小濱文庫として五十万円寄附、今後三十万を年々書籍代五萬円を寄附する事になつている由である、なお翁のボダイ寺壽福院、寺院改築に拾万円引いて諏訪神社に生活改善の見地から馬上庄治漁業組合長等の協力を得て儀式殿を百万円の予算で新築を計劃うち拾万円寄金した

芳賀良太氏

常磐市湯本天王崎四二、芳賀商店主の氏は過般永眠、氏は同市藤原出身で磐中六回卒詩作をものし、立憲霙正会に關係した事もあつた

小曾納文治翁

磐城市野田小曾納文治翁は五月二十五日急逝された、同三十日郷里茨城縣内原にて葬送氏は行年七十四才。玉協組合事務所（野田）に八年前から居住され、精く清掃夜番等協力を惜しまなかつた喪主昭氏は小名濱測候所に勤務

長谷川兵衛氏

(平市第三小學校西隣)の氏は竹林病院で加療中であつたが同上(元本社々員)

地方で活躍する

舊玉川村出身の偉材小松茂氏

野田の玉川、野田の入江林城禪長寺正親町天皇勅額『海会』岩城々主の古城住吉館趾、島館、伊達四十八館の一、岩出館、其の他林城金成城の趾由來地方文化の發祥地とされた舊玉川

夕されば汐風越して
陸奥の野田の玉川
千鳥なくなり
新古今集、能因法師

この野田で盛蹟をあげ、若い人は忘れて居るか知らぬが、林彌さんと稱して居つた、いつの間にか茂さんと戸籍ともまかり通つた、舊玉川村出身で、平で活躍して居る人々に、常磐交通KKの野崎滿藏同喜八郎氏兄弟、それに今、駒忠事件の立主役、常磐製藥の駒木根忠敬氏、女性では澤の湯の永山ギンさん、丸通の石井金治氏、蛇の目壽司の星野氏、市役所に丹野課長、最近野田の大和田三十郎氏は五丁目平モーター商会の專務となつて居る、揚げれば際限りがない、幽明界を異にしたが故山野邊義政（辯護士）氏も忘れられない一人であろう。

小松茂氏は平市議会議員の現職に在り同文教委員、大東亞戰で愛子二人を犠牲にして戰前と戰後の氏の思考は變つて居るかも知れぬが令嬢に婿養子を迎え最近店頭等改築、新裝成り南町の小松酒店は隆々として盛隆さを增して來た、寫眞がものいう、キツイ相がある、地方政界の闘士として鳴らした昔とつたキネツカとかサイトゴマ平市支出の三十萬円で諸橋平市長に頭を下げらした等、議会席での當處振りはマサにレイフワエンされたものだ。

寫眞は小松茂氏明治三十一年舊玉川村に生る小名濱補習學校卒業後商業に志し平町に開店す大正九年比佐昌平氏が時の財閥白井博之氏と戰う勿論私は比佐氏を應援したるも破れたそれ以來政治に興味を持ち作ら商売に努力し昭和十三年現住所に土地を求め住宅を新築す昭和八年五月町会議員選擧に町内の有力者齋藤寅吉氏と共に立候補し私は青年会員等の應援を受け當選せしも齋藤氏は然も區長四期、務め有力者であつたが不幸落選し意外に思つた昭和十六年日支事變中市会議員選擧に當選以來今日まで議席を有す此の間日米戰爭で長男次男を失い終戰後平市遺族会を結成平市遺族会長として遺族援護務力し又平市遺族連合会長に押され他縣遺族連合会長として亦靖國神社全國評議員に推認され今後益々戰爭犠牲者のため努力する心算なり同時に議員としても平市のみならず石城地方發展の爲にも盡力したい考えである

贊援 平新報續刊

醤油・味噌醸造 志賀要平 電(小名濱)二九
常磐交通株式会社 野崎理夫 平市城山
關内油店 關内正一 平市二丁目
玉川農業協同組合長 駒木根忠三 磐城市大原
釜屋会計 諸橋元三郎 平市五丁目
磐城高等學校長 橋本憲司 平市五丁目
常磐製藥株式会社 駒木根忠敬 住所 平市三丁目
荒物・雜貨 伊勢屋 阿部唯次郎 平市四丁目
平市長 諸橋久太郎 平市五丁目
平市助役 伊藤秀吉 平市丹後澤
猪狩四郎 平市田町

鹽屋 山崎会名社長 山崎與三郎 平市古鍛冶町
磐城高等學校同窓会 会長 山崎忠兵衛 平市古鍛冶町
福島縣高等學校長協議会 石城支部
旅館 澤の湯鑛泉 割烹 永山キン 平市湖際澤七七 電(平)九一七番
平市湖際澤(女學校下) (十)パン店 關内彦太郎 電話一九八一番
株式会社 大黑屋 馬目勝次郎 平市三丁目
磐城市農業共濟組合長 理事 柳井五郎 磐城市金成
平市一丁目 坂本紙店 坂本昌藏 電一八・二一七五
縣人事院委員長 蓮沼龍輔 平市田町
大一屋商店 根本善吉 平市二丁目 電十三番
株式会社七十七銀行平支店 支店長 氏家敏雄

酢屋 野崎貞行 小名濱
福島縣会議員 小野義一 小名濱 淸水屋
磐城高等學校同窓会 顧問 大橋秀冬 平市田町
天理教磐城平大教会会長 平澤福太郎 平市古鍛冶町
鮫川堰區總代 鈴木芳之助 磐城市島
齋藤慶次郎 磐城市住吉
根本時計店 根本義一 平市二丁目
磐崎農業協同組合組合長 瀧義勝 專務 佐川儀兵衛
磐崎郵便局 局長 大平純一
常磐線湯本驛(下車) 白鳥鑛泉 喜樂屋 電話(常磐局)二二七
常磐市上湯長谷 姥の湯 若松蔵 電(常磐)三三〇
湯本 百兩 常磐市 電一五三・三一二

黄じ褒章　諸橋久太郎氏

平市五町目六釜屋諸橋合名会社々長、平市長諸橋久太郎氏(六四)は五月三日憲法記念日に黄綬褒章を贈られ表彰された、氏は平信用金庫理事長として昭和七年以來平信用金庫制度が開かれて今日まで二十五年間地方金融界に多大の貢献を殘した、またこの間縣農工銀行取締役となり縣下の中小企業の育成振興に對しても非常な努力を盡した。（寫眞は諸橋久太郎氏）

鑛産税税額更正決定方の念達

謹啓　前略昭和貳拾七年度より同參拾壹年に至る五ヶ年間に貴市又はその合併したる舊町村においてその鑛業者に課した鑛産税は地方税法、第五百二十二條の申告納付に依るものでこの際關係市町村議会議員及び所在住民の異議を尊重せられ同法第五百二十五條の事業に關する帳簿書類その他の物件の檢査を省略する事なく同法第五百十九條及び同第五百三十三條の課税標準を納税義務者たる事業所の帳簿事實を基準とされ速かなる機会に税額更正決定せらる樣貴職の公約である税の公正明朗化を信じて貴職に協力する一市民として後日のため右念達する。乍末筆貴職の御健昌を祈願する。　敬白

昭和參拾貳年六月二拾壹日
常磐市大字湯本字三函一五　鯨岡　潔
常磐市長　磯野清治殿

信仰の結實　伊關呉服店と小名濱本田屋の慶事

寫眞は　多幸の昭五郎さんとサツちやん

相撲は大關呉服は伊關、客は横綱士つかずで有名な平市二町目角伊關呉服店主伊關房次氏五男昭五郎さんは小名濱港後宿上明神町本田屋、小野照吉氏の末の令嬢サツさんと婚約成り天理教磐城平大教会々長、平澤福太郎氏夫妻の媒妁で五月七日予定通り同教会で祝典を擧げた、新郎は水戸市泉町伊勢甚商店に平商卒後見習となり勤續丸九年間今や洋品雜貨の部長に榮達して居る、老いの房次翁ものして曰く

小野、伊關初の土俵は
水戸の華
伊勢甚じんと
榮ひ行くらん
世の爲めに
つくし得るなら
いつ迄も
名が生き〳〵と

千歳万歳　伊關華堂

玉川農協の新役員と同組内農事班長

玉川農業協同組合総会は拾日午後一時より小名濱第三講堂で開催、役員の改選され、當選者左記

理事、駒木根忠三、山野邊庄吉、柳井五郎、大和田喜平、永井一格、高萩次四郎、高萩一、小泉四郎、若松岩雄、監事、石井幸平、日高玄海、鈴木進

なお、組合長互選は同月十二日行われ滿場一致駒木根忠三氏選ばれた。なお同組内の本年度農事班長左記

大原、石井要之助〃駒木根忠三〃小野蔡〃橋本みよ、相子島　小泉保男、住吉　竹原太市〃野崎佐内〃高萩幸〃高萩傘司〃大和田忠吉　林城　永井一格　金成　柳井喜勝　岩出　村上正一、野田　白土正吉〃大和田茂〃小松佐市、島　鈴木陽一

〃鈴木都〃鈴木盛枝

小名濱農協新役

小名濱農業協同組合は五月十八日総会を開催左の役員當選、續いて理事長互選の結果、草野新兵衛氏再選された。

理事長草野新兵衛、副組合長村上重一、理事柳内嘉平〃小野義忠〃小野源太郎〃鈴木孝次〃吉田利治〃高木武士〃飯塚新四郎〃吉田義雄〃渡邊榮〃新妻福彌〃小泉幸延〃箱崎正敏監事渡邊清国〃清水清〃渡邊利平

響　反　音信交換

東京都世田谷區玉川奥澤町二ノ一三三　下山田秀雄

五月十四日

拜啓　隨分久し振りですね一別以來何十年、平の中學校に學んでる間はだ十有幾才と云う幼年時代でありました、この頃の姿が未だ目に映じて居る、私は貧乏に生れて中學に行くのは無理でだつたが島の叔父宅から平迄三里の道を五年徒歩で通したそれから御互に分れ〳〵て人生の行路を四十有幾年健在で御目出度う御座居ます。私も最早六十六才に達し中學の頃の舊友を壞しく思起してる、有爲轉變の五十年も過ぎて今どうにか暮して居りますが老境に入つた事を樂しと感じつゝ健在に候

吉田茂氏

東京都世田ケ谷區烏山町十八七、理學博士、三共藥學研究課長、この人は天理教の平澤会長の實弟で小島出元首相、又泉にも同姓同名の教育者が居られる、磐中は三十一回卒業、東京文理大出身、

勤王学舎々長　吉田庄太郎氏逝く

本紙寄稿家、勤王學舎長吉田庄太郎氏は五月二十日午后七時四十分平市七軒町四一の別宅で心臓マヒで永眠された行年七十六才。二十三日平市南白土の自宅、和田碩さん（氏の夫人）喪主となつて行はれた、会葬者が多い、殊に教經者關係、篠山脈氏、木村清治氏、野崎滿藏氏、齋藤晃氏勤王に一脈に通ずる有志の会葬が目立つた、法名は剛毅院行覺鐵漢居士として誌問存（荒川）丘に永久に眠られた

弔辭たの人々がよんだ

一、平市友人代表、山崎與三郎氏
一、好間村長　鈴木榮一氏
一、好間第一小學校長
一、磐城市玉露　大橋彌太郎氏
一、小川郷会、小川小學校長伊藤伊佐次氏
一、庚員会長　大塚三壽氏
一、小名濱幼稚園長鈴木イセ氏明治四十二年度卒業（小名濱小學校）四十五年前

弔電の披露、井上日尙氏、木村守江氏外十四人

なお和田家では故人の遺志により左に寄金した

一、平市第四小學校
一、平市第二班消防班
一、平市南白土青年会
一、平市南白土婦人会

續いて讀書家としての故氏の藏書約一萬冊は平公民館に寄贈、新聞雜誌等は釜屋諸橋元三郎氏の主宰する三猿文庫へ、續いて最近出生地たる小川町の故翁の甥の吉田政雄氏が主となり小川町に書籍神社を建立の運びになりつつある由である『人は榎を負ふて初めてその質價を知る』とか讀書家として藏書その萬書を讀破したしたのだから以つてその信念は授して知るできである、故人となつた元佑賢學舎大和田縣吉氏とならんで地方讀書家平公民館に吉田庄太郎文庫としてのこる故氏又瞑すべきである、故に氏が最後に本紙へ寄せた（日本人總懺悔の秋）時寄稿文は遂つて本紙に掲載して翁を追悼の一助とする

農村電話設置に精進　草野局の阿部昭男さん

新妻恭孝氏を局長とする草野郵便局々員阿部昭男氏は成績優良（農村電話設置に推進に努力）で平電話局長より三月十四日表彰された氏は下大越の青年團長等を務めて居る

（活耳目）

組合員に遠く成つた理事會

常磐市農業共済組合（理事長吉田直文氏）では、過般総代会を召集し、理事七名監事三名の改選を行つた、同共済組合は昨年湯本、磐崎兩面組合を合併して常磐市農業共済組合と成つたもので、合併の時は総代会で合併準備委員が理事監事と成り理事会の互選で理事長就、常任理事吉田直文氏が誕生今年五月末日迄其の座に居りこのほど改選の結果理事長就。常任理事に再選されたが從前までは総会の上で理事監事選擧行つて其の理事の互選で理事長を決定されたのだが今度は總代会で選擧したが組合員はだれが理事監事かわからないのが大半、組合員と遠く成つた理事会其の理事監事次の通り

理事江尻遠平、同佐川忠士
同吉田直文、同小野右平、
同遠藤芳德、同尾崎德衛、
同比佐勇、監事大井川富太郎、同小泉三夫、同高原祐吉

磐崎中学校　職員移動

常磐市磐崎中學校では四月移動期に前校長岡部政一氏は退職、小野教頭外五名は他校に轉出され、後任校長に福島縣教育事務局の鈴木武雄氏、教頭は磐城市渡邊中學校の小松隆氏、校長共七名の轉出入で磐崎中に新しい風が吹き、父兄から期待されている。尙お新校長は昭和七、八年頃、市内長倉小學校で教鞭を取り、其の後田村中、磐城高女から數年前、縣教育事務局に轉出、體育を主として現在は内郷市から登校されて居る。

西郷の區劃整理にヒビ入るか

常磐市土地改良區（理事長矢吹兆司氏）では、同市大字西郷（區長箱崎武護氏）地域七拾町歩の耕作者百二十名の水田を三十三年度を目標に區劃整理を着工し様と去月二十一日より測量を開始されたが、區劃整理案昭和二十六年度から現在まで六ヶ年間、昨年の區長磯上義次氏より急速に區劃整理の聲が高まり、今年四月から西郷地域區劃整理實施同意書をもつて署名捺印を行つた結果、百二十名の耕作者中百拾名同意者によつて今日の測量と成つた、ところが反對者拾名と共に同意者十五名が上地區水田十七町歩を區劃整理地區から除外してほしいと運搴をもつて反對では無く陳情書で土地改良區並に大字區長、推進委員長磯上義次氏提出され二、三回の話合がされたが結論がつかず今後成行が注目されるに至つたが、反對ではない、お願だと言れる代表者佐川子之松、箱崎幸廣兩氏、推進委員長磯上義次、區長箱崎武護、農業委員菅野榮作、同大平義平、前市議箱崎孝一各氏推進委員等は前後を良くかみわけて、又土地改良區理事等も眞劍に取組んで門題を消化して前進する樣せまられて居る。（箱崎）

（新報直言）

擔当　赤井嶽子

紐のついた一つのエサを爭う四疋の金魚、二〇を二等分して、その一〇を更らに三分して、爭う小學校の算數、その結果は明瞭で紐付である事にも變りはない。▼ボスがダラ漢に變つて利用價値は一層に增すであろう。とはこの頃の炭礦街の話題の一コマ▲アメリカの自動車勞働組合（UAS）に屬するフォードゼネラルモータスが一九五五年六月勞働協約をそれ〳〵結んで六五%の失業手當をヤット獲保した▲ところが敗戰國の日本では資本家と勞働者と官廳とが協謀して一〇〇%の賃銀保障所謂一時歸休失業手當を國から獲收した▲この不合理を一友人は勇敢にも会計檢査院に査察の要求をなした▼ために血税をも含めた失業保險特別会計の數千万円はその難をまぬかれた▼この地方から選出された社会黨の知的有力參議院議員は勞働者達に惡事があつても批判矯正はさけて只々默々として認むべきだとこの友人をなだめたそうだ▼これは一例だが結局自分と自黨だけが勝つことである。彼等の論難する保守黨と何の變りもあるまいこれが現在日本社会黨のスガタである▼言號では國家を地方を論じても中央での幾人かの理論指導者の彼等は單なるレコードキャリア…（常磐運搬夫）の類である身につかぬ受け賣りチンピラには實践力がない▼獨善をやめて市行政の民主化とこれが磯野新常磐市長の第一聲である……實に麗しい結構な言葉である▼營利会社が四億萬の資金と業務命令まで出して選擧の前日まで選擧運動に臨休させて出勤扱いする……こんな謳力をカンキン狀態に置いたとか……置かないとか……これが國……京濱地帶の民主化實態である▼アメ公統治下の殖民地の司政官がこの地方にも來たと聞けば驚くが……さて讀者諸君はこれをどう思うか。▼社長は会社は地方の自治政には介入ないと誇稱してその部課長の一部は、似然として石炭掘採業とは掘事ではなくて企業に特別の行政的便宜を需ることその政治的背景をつくつて脱税的經費の經減以外にはない、……これが日本產業の末端の印象だと街の雀は叫ぶ▽この頃常磐市で法人税五百万脱税して会社は罰金五百万社長は懲役一年求刑された会社がある▼最近平税務署管内でも機構擴充整備して國税廳も自治廳も協力して大口脱税の防止に懸命するとか、大企業が社殺をつかつて首長と談良を冠ふ時代はそのうち終るであろう!!▼鑛産税住民税資産税等引下を公約した磯野さん迷政策ではあるまいか……どこからも紐付でなかつたこと。勞組時代は革同の主將として時の勞務課長に將來会社に特に協力すると誓約書を一札入れなかつた事等炭礦の一勞働者から自由に動ける市民になり上つた人格高潔な磯野さん市民の一〇分の四は歡迎してお待ちする。自重自愛大いに頑張つてそのお手竝を!!

安藤信正公銅像　再建促進運動

諸橋氏、野崎氏參拾万圓決定

平、松ヶ岡公園第一公園に在りし安藤信正公銅像は大東亜戰中供出し、土台は殘つて居るが、這回再建期成同盟会を設け、着々それが会員募集に當つて居るらしい。

一、会長は平市長諸橋久太郎氏
一、副会長野崎滿藏、菅沼淡夫、阿部政右衛門、山崎與三郎、内木宗八、永井誠（スガノヤ農具店会計）加藤武久、柴田德二藤澤武の九氏
一、幹事三村直次氏外拾四名
一、事務局長、平市役所内觀光課長鯨岡多久氏他に会計監査、三名等あるも略記す、正会員は五百円以上地会員は五百円未滿、贊助会員壹千円、特別会員三千円以上。
一、工費は総額貳百五拾万円の予算（内譯略す）

右の如きで故安藤ナッさんから本社亡人安藤信義氏未を通じ五千円納金ずみ、諸橋平市長參拾万円、常磐交通KK社長野崎滿藏氏參拾万円の特別会員確定せる由である、荊藩（平安会）の三村直次氏等奔走中と聞く左に三十六年前建立當時の協力者芳名を報じて見るも無駄であるまい、大半故人となつて居るが、存命の有志は感無量なるものがあろう、山崎與三郎氏、諸橋久太郎氏、阿部唯次郎氏しよう名せるもので當時の人ではないから判讀してもらいたい。

安藤信正公銅像の記（碑記）　大正十一年六月十一日建之

信睦、信正、とも稱し、文政二年一月生れ、明治四年十月逝く、享年五十有三、五萬石、作型、本多朝忠、締工、工藤源吉、石工、岡本良平

委員長菅沼鋒太郎、副同伊坂員正、委員飯田一二、市原卯太郎、馬場豐次郎、神谷辰五郎、加藤丈夫、吉田禮次郎、土屋寛、鍋田三善有賀幸太郎、平松武外十六名君子協力者芳名、永山義太郎、平松武、中野勇吉、白土四郎、本岡孝一、諸橋國松、金成通、会津晋次、松崎長三郎、伏見彥衛、松崎菊三郎、腰塚小彌吉、佐々木健一郎、藤沼平次郎、松井清水、金成淺治、瀧澤俊平、瀧川寛、高野得助、武田コウ、根本莊次郎、根本品藏、長瀬延太郎、小野關次郎、岡田長太郎、岡田治作、大谷久藏、大和田豐吉、若松新吾、和田彌宗、綿引秀親、柏原眞吾、金子角藏

（以下次號）

平新紅筆

圀此處に大紅筆せねばならぬは五月一日のメーデーの平の夜の華街である、湯本は市長選、酣（たけなわ）とあつて仰謂ヒロッキ勞働貴族が縱横に散財した、神武以來の景氣は炭礦よりやつて來た、〇〇〇、長右エ門展風は暗に吹く〇〇〇ものローラクに半鐘をならせ、サラシナと石炭と、代議士の野心、五大市合併、それからそれえと平の華街は筆者捕筆では表現し得ざる惡趣味の魔の手は深刻さを加えて來る。（續く）